



APRICOT2019 参加報告

慶應義塾大学 政策・メディア研究科
鈴木恒平

● 自己紹介

- 鈴木恒平
- 慶應義塾大学 政策・メディア研究科 修士過程2年
 - イベントネットワークの設計・構築・運用
 - バックボーンネットワーク(AS2500)の運用
 - ルーティングセキュリティに関する研究

● 参加動機

- 国外の動向調査・情報収集
- 技能知識の確認・更新
- 同じ領域に関心のある人との交流

- 2/25 (火)

- Newcomers Social
- DNSSEC Validation
- The IPv6-Only Network: Building Networks with DNS64/NAT64/464XLAT
- Opening Ceremony & Plenary
- APOPS 1

- 2/26 (水)

- DNS privacy using Unbound
- DNS Operations
- Technology
- APNIC IPv6 Deployment
- Routing Security BoF

- 2/27 (木)
 - Routing Security 1
 - Routing Security 2
 - DataCentre
 - Network Operations 1
 - ISOC@APRICOT
 - Meet the APNIC EC
 - RPKI Key Signing BoF

- 2/28 (金)
 - IPv4aaS tutorial and hands-on (Part 1)
 - NOG Updates
 - Lightning Talks
 - Closing Plenary
 - APRICOT Closing Social

● 概要

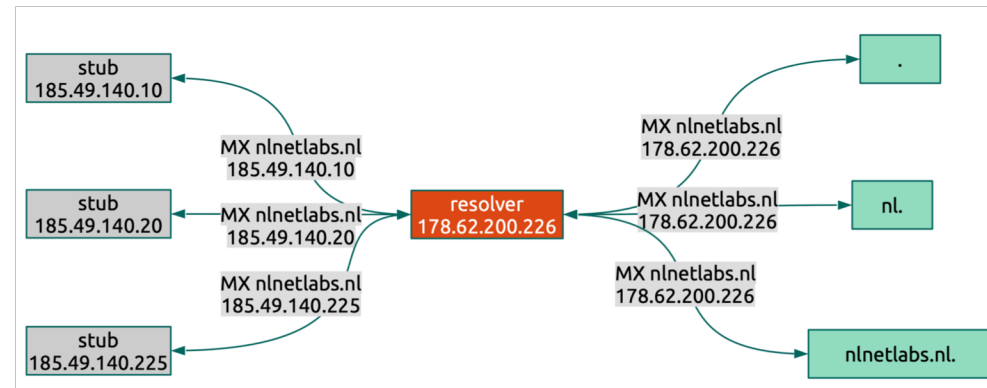
- 運営委員からの開会宣言や基調講演が催されるセッション

● 感想

- Andrew Sullivan 氏 (ISOC) の基調講演が印象に残った
- 多くの人や業界団体がインターネットに関連するようになった今日において、インターネットをより良くしていくうえではその原理について十分理解をしていく必要がある
- 技術者としてインターネットへの規制を他人事として思わず、政策立案者や規制当局などに対して、それがうまく機能する方法をインターネットの構造という視座から働きかけることが、両者の利益になるだけでなく、インターネットを損なわずに発展させる上で必要である

● 概要

- 「DNS privacy」という概念の解説と実装、設定例の紹介
 - 一般的にDNSの問い合わせは平文で送信されるため、サーバ管理者や第三者に利用・追跡・傍受される可能性がある
 - それを防ぐためのソフトウェアの実装や設定例に関する紹介



<https://www.slideshare.net/apnic/dns-privacy-in-theory-and-practice>

● 感想

- 国内で聞いたことがない話だったので、新しい知識を得ることができた

● 概要

- Social と呼ばれるカテゴリのセッションの1つで、自組織がROAを発行しているとTシャツがもらえる

● 感想

- 自組織がIPv6プレフィックスについて署名済みだったため、Tシャツをもらえた。
- このセッションが一番多く参加者と話すことができた



カンファレンス全体を通じた感想

8

- セッション外でも国内・国外問わず、多くの参加者と交流することができた
- セッションを通じて得られた知識が、今後の学習の刺激になった
- 継続して参加して、発表もしてみたいと思えた



- これまで国外のカンファレンスに参加する機会が得られなかった自分にとって、今回の支援プログラムで得られた経験は忘れられないものとなった
 - 会場の雰囲気、参加者層
 - どういう議論がされているか
 - カンファレンスへの参加経験
 - 英語でのコミュニケーション
- インターネットが多くの人や組織の強調によって動いていることを再認識できた。
- 自分ができてよかった／取り組むべきだったと思うこと
 - 現地参加者との交流
 - 議論のフォローアップ
 - 英語でのコミュニケーション
 - 恥ずかしがらない！

- 達成できたこと
 - 国外の事例調査
 - 技能知識の確認・更新
 - 現地参加者との交流

- 達成できなかったこと
 - 議論での踏み込んだ質疑応答
 - Policy SIG などの参加

- 今後の目標
 - 今回の議論のフォローアップ
 - 英語で自分の意見を伝えるトレーニング
 - 再度参加する機会があったら発表したい！

- 金銭的なサポートのみならず、人的なサポート、航空券、現地のホテルの手配など、多くのご支援を頂き、大変感謝しております
- 支援プログラムそのものは今後も継続していただきたい
 - 可能であれば、その他の会議や、連続して参加する機会が得られたら良いと思った
- とても密度の濃い日々を過ごすことができました。本当にありがとうございました！